

令和5年度第2回大阪府立博物館等指定管理者評価委員会 議事録

日 時：令和6年2月2日（金） 午前10時00分から12時00分

場 所：大阪府立近つ飛鳥博物館 2階会議室（オンライン併用）

出席者：南委員、羽森委員、川喜多委員、長友委員（リモート）、福光委員（リモート）

（事務局）大阪府教育庁文化財保護課

（指定管理者）AKN 共同事業体

<開 会>

事務局より委員会成立を報告（出席委員5名、規則の定める定足数である委員5名の過半数を満たした）。

<議 事>

（1）弥生文化博物館のI及びII

事務局：評価票（案）についての説明。

長友委員：初年度としては順調な出だしを切っているものと考え。本年度の博物館運営においては、指定管理者が交代し、複数の企業が共同企業体として連携し事業を進めていることが特徴。そうした連携のために会議を行っていると考えが、今までの会議で挙がってきた問題点や今後の課題などがあれば例を挙げてほしい。

事務局：指定管理者によるJV会議、JVと文化財保護課で実施する博物館連絡調整会議のほか、弥生文化博物館では全体会議、学芸会議、広報促進チームの会議などが実施されており、毎月開催されている。会議における問題点の提起・対応としては、災害対応の方策について博物館連絡調整会議で協議し、台風接近等による気象警報発令時の対応について方針を決定した等の事例がある。

長友委員：災害対策の強化は指定管理者の評価に繋がる点であり、自己評価に記載するに値する内容である。

川喜多委員：SNSの活用について、弥生がX(旧Twitter)を実施していないのはなぜか。ほか、FacebookとInstagramの間で投稿数が違うのは、SNSによって投稿内容などに使い分けがあるという認識でいいか。

事務局：X(旧Twitter)の利用層はInstagramとある程度重複しており、後者のみの実施で発信効果が見込めるという判断があった。ただし、本年度の成果を検討する必要があると考える。

指定管理者：投稿内容については、指摘の通り意識的に使い分けている。Instagramでは写真・画像、Facebookでは文章に重点を置いた投稿の評価が高い傾向があり、投稿数の差を生んでいる。

羽森委員：「I(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果」について、放課後等デイサービスの受入れを行ったという点は、具体的にどのようなことをしたのか。

指定管理者：本項の放課後等デイサービスは障がい者向けの支援サービスであり、団体見学として受け入れ、展覧会の観覧や体験学習の実施をした。そのほか、障がい者対応としては、イベント開催日に来館した要支援の利用者について特に注意を払っており、ケースによっては教育専門員が同行する。

福光委員：「弥生の御朱印巡り」という企画について知る機会があった。弥生文化博物館も参加しているようだが、取り組みの詳細や成果はどうか。

指定管理者：「弥生の御朱印巡り」に関しては今年度から新たに参加し、和泉市・泉大津市と連携した3か所で「池上曾根遺跡」としている。今後の効果に期待したい。

事務局：「弥生の御朱印巡り」は鳥取県から始まり、日本全国にある弥生時代の代表的な遺跡を巡るための企画として発足した。ほか、「大阪府登録文化財所有者の会」が事務局となって建造物の文化財を巡る「御財印巡り」という企画もあるが、こちらも弥生文化博物館が今年から参加しており、新しい取り組みとして評価できる。

南委員長：その他、I、IIについて、異議はないか。（全員：異議なし）

（2）近つ飛鳥博物館のI及びII

事務局：評価票（案）について説明。

長友委員：安定した入館者があり、活発に取り組んでいることが分かる。近つ飛鳥博物館では子どもの「体験学習」という点での活用が特徴だと感じた。公共交通機関によるアクセス手段である金剛バスが廃線となるのが喫緊の課題であると思うが、入館者の年齢層など、影響を見て取れる部分はあるか。

事務局：金剛バスは廃止になったが、廃止翌日より新たにコミュニティバスの運行が始まっている。なお、廃止になる1月半ほど前から受付でアンケートを行ったところ、平日は2～3割がバス利用であり、祝休日になると自家用車の割合が平日より増加するという傾向が分かった。

指定管理者：入館者の年齢層に関しては、大きな変化はなく、概ね従前通りの割合である。

長友委員：近つ飛鳥博物館は周辺に飲食店がなく、館内に飲食スペースを設けているのが特徴。昨今の物価上昇を受けて価格帯や利用者数に変動はあるか。

指定管理者：現状では大きな変動はないと認識している。

南委員長：入館者の年齢層について、数字の集計は行っているか。

指定管理者：入館料割引などから大まかな数字を把握することができる。

南委員長：インバウンドの来館者数についてはどうか。

事務局：集計を行っているので、後日改めて回答する。

川喜多委員：3月に行われる安藤忠雄氏講演会の申込方法が往復はがきだけなのはなぜか。

事務局：無料の講演会であるため、応募後のキャンセル数を抑える意図で、往復はがきのみ

とした。

羽森委員：本博物館は安藤忠雄氏の設計であるため、建築好きへのアピールを行うことは如何か。ほか、学校教育との連携について、学校からの見学やツアーでアンケートを徴取することで、館のサービス等について多くの意見が得られるかと考えるが、本館に訪れる学校団体は新規層とリピート層のどちらが多いか。評価については、弥生と近つは同じ指定管理者による運営だが、弥生のS評価の数に対して、近つはAが多い。この点について理由はあるか。

指定管理者：建築面でのアピールについては、安藤忠雄氏の建築を巡るツアーなどの施策を展開することも検討している。小学校の利用に関しては学外授業（遠足）のリピート層が多く、新規受け入れより現状を維持することを重視していきたい。

長友委員：評価項目として色々な基準が充てられているが、博物館の本分は展示である。弥生時代と古墳時代の専門家として、両館はともに質の高い展示内容であると考え。近つはA評価が多かったものの、企画展の図録を見ると、博物館の本質である「モノを見せること」に重きを置いていることが分かる。こうした点は経営上の定量的な数値や、評価票に反映されない点かもしれないが、高く評価できる。

南委員長：その他、I、IIについて、異議はないか。（全員：異議なし）

（3）弥生文化博物館及び近つ飛鳥博物館のIII

事務局：評価票（案）についての説明。

川喜多委員：弥生文化博物館について、金額に誤記があるので訂正を求める。ほか、両館は入館者数の基準を達成する、あるいは達成する予定であるにもかかわらず、当初の来館収入見込みを満たせていないのはなぜか。

指定管理者：弥生の場合は、一階をフリースペースとして無料で開放したため、入館者数と来館収入の数値に差が生まれている。

事務局：ほか、今年度は来館者の多い季節に単価の高い特別展を開催しなかったため、それが来館収入の減につながっている。

南委員長：評価に係る部分について、委員から異論はなかったが、指摘や提言が多岐に及んでなされた。これらを踏まえて施設の所管課と指定管理者で検討の上、評価票案を修正し、最終的な評価票を作成するという形でよろしいか。（全員：異議なし）

事務局：今回の意見を踏まえ、事務局で評価票案の追記並びに修正をする。本日の議事要旨については、事務局でまとめたものを委員長が最終確認して成案とするということよろしいか。（全委員：異議なし）

<閉 会>